

令和5年度 舞台技術ワークショップを開催しました

令和6年2月11日（火）に高崎市文化会館ホールにて、舞台技術ワークショップを開催しました。



定期演奏会でご利用いただいている高崎市内高等学校の、音楽部・吹奏楽部で活動されている生徒13名と先生2名が参加され、舞台・音響・照明の舞台技術を当館職員が解説、実際の機材を使いながら学んでいただきました。

2時間の長丁場にも関わらず、みなさん真剣に耳をかたむけてくれましたね。みなさんの真摯な姿勢に、我々スタッフもついつい時間を忘れ、熱が入ってしまいました。

今回は、事前に「舞台技術全般において、みなさんが聞きたい・

見たいこと」の質問を募集し、お寄せいただいた質問にお答えする内容を盛り込んでいます。



参加校の定期演奏会を想定、舞台は音響反射板とし、ひな壇を組んだセッティングで開講しました。

まずは事前の質問に対して解説を交えながら回答。また「舞台の上手と下手」「尺貫法とは？」など、舞台を使ううえで基本的なことを解説。これは事故のリスク回避のために全員で同じ認識を持つことが重要です。



さらに進行表のつくり方やタイムスケジュールの組み立て方など
ポイントを説明しました。



続いて、音響の説明では、マイクロホンの使い方に関する注意点や持ち込み音源の再生に関する
こと。バウンダリーマイクやペンタイプワイヤレス

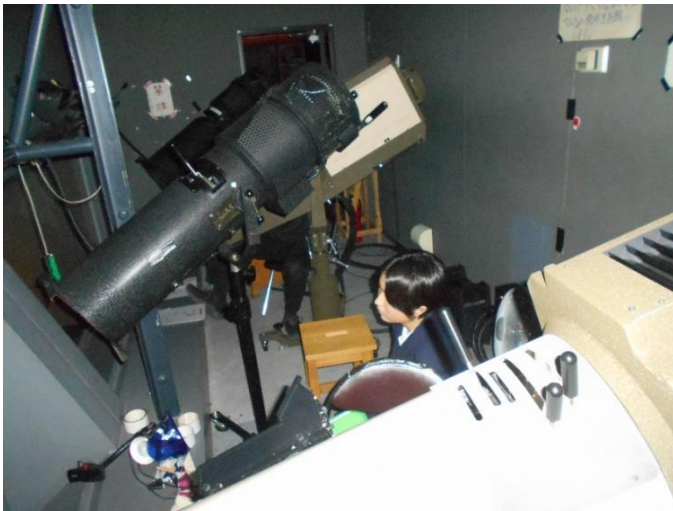
スマイクなどさまざまなマイクも用意され、その役割や使用方法について解説がありました。

休憩を挟んで、照明の説明では、自分の行きたい場所での聴講を可能としました。これは舞台(演者目線)、客席(観客目線)、調光室やピンスポット操作室(オペレータ目線)で、照明の演出効果を体感してもらうことを目的とした試みです。

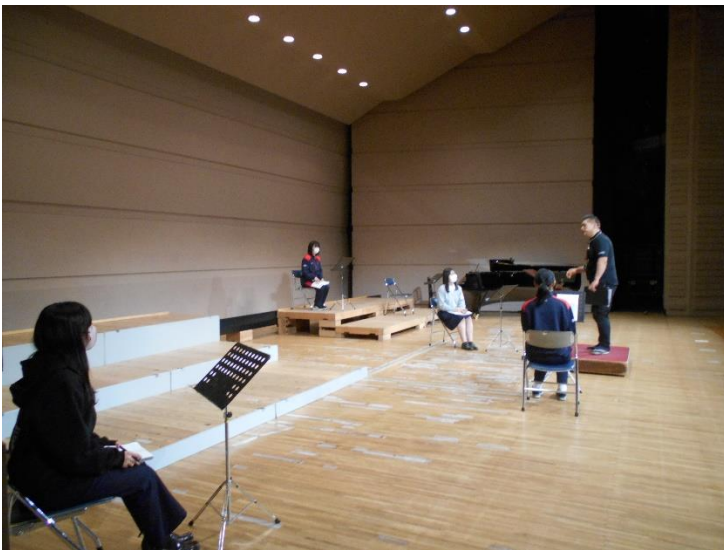
調光室のようなオペレータールームは部屋が広くないため人数を制限させていただきましたが、大変好評だったようです。

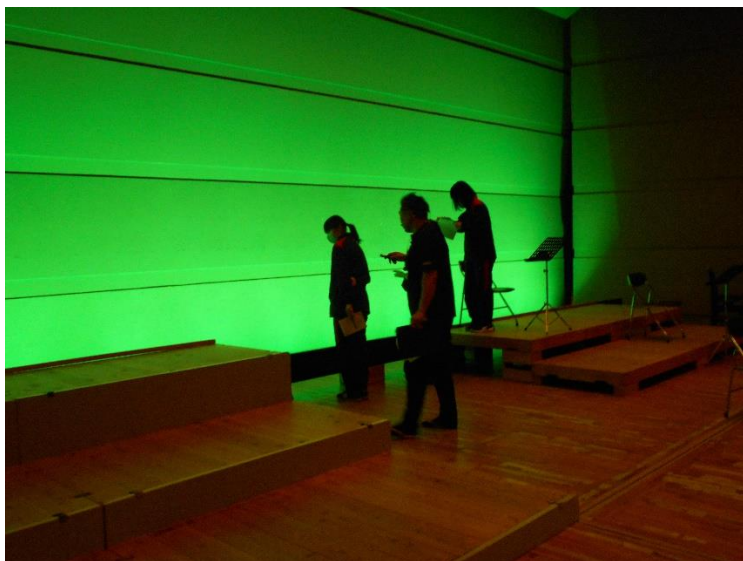
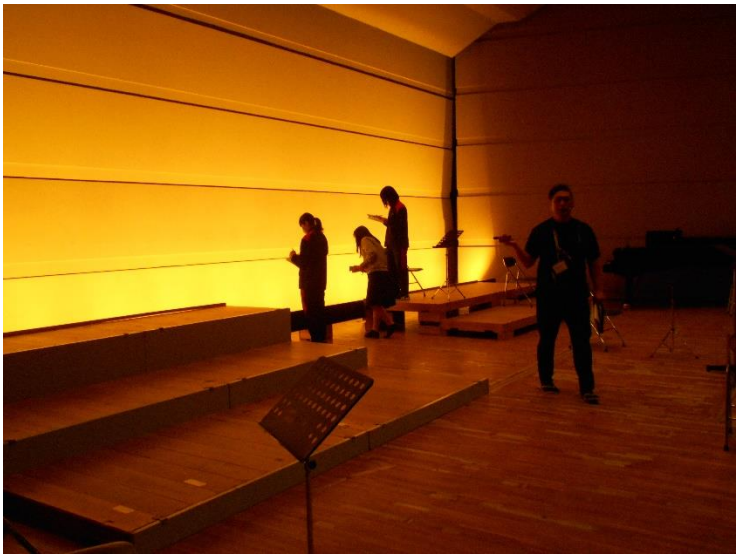


調光室



ピンスポット操作室





舞台全体をどんな風に照らしているのか？…演奏者が眩しくないように…明かりの魅せ方とは？…オペレートするって実は繊細で、緻密で、事前の段取りもけっこう大変なのによって苦労バナシまで、様々な視点から解説…開講からここまで約 100 分。かけ足で説明したのにもかかわらず予定の 90 分で収められませんでした(泣)。時間の関係でしゃべり忘れたことがたくさんあったんですよ。すみませんでした。

そして残りの 20 分を個々に質疑応答の時間としたところ、みなさんが思い思いに自分の疑問を投げかけていました。

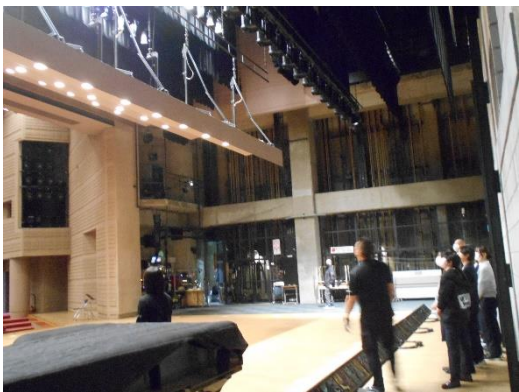




実際の舞台で使用されている機材の役割や機能を少しでも知ること
とで、演出がよりイメージしやすくなったと思います。

ワークショップ終了後、時間がある人向けに番外編として平台の撤
収体験。お疲れさまでした。

さらに音響反射板の格納作業を解説付きでのご観覧。日ごろはほとんどお見せすることのない作業なのでレアだったと思いますよ。



アンケートでは今後の定期演奏会で役立つとのお声をいただいております。おかげさまで好評のうちに終了しました。

ご参加いただきありがとうございました。

また、今回ご参加いただけなかった学校のみなさんも次回開催の際にはぜひいらしてください。お待ちしております。